

# 「丹波栗」農家の技術体験



地元のプロに教わりながら栗の接ぎ木に挑戦する  
篠山東雲高校の生徒たち＝丹波篠山市福住

## 篠山東雲高生 接ぎ木に悪戦苦闘

### 丹波篠山

全国的に名高い「丹波栗」の生産技術を知ってもらおうと、丹波篠山市内の栗農家が、地元の篠山東雲高校（同市福住）で接ぎ木の体験会を開いた。生徒8人がプロの手ほどきを受けながら、台木に穂木をつなぐ作業に挑戦した。

丹波さやま栗振興会の企画で10年ほど続く取り組み。同会によると、栗農家でも接ぎ木済みの苗木を買うことがほとんどで、技術を知らない人が少なくないという。体験を通じて、若い世代に丹波栗やその生産を支えるノウハウに関心を持ってもらおう狙い。

3月に苗木の移植を実施

2024年5月22日  
神戸新聞

し、4月下旬にあつた接ぎ木体験にはアグリサービスタイプの2、3年生8人が参加した。同会の会長(75)が手順を教えた後、農園で同市栗剪定士協議会のさん(63)が作業を実演。ナイフで穂木の先をくさび状に整え、切れ込みを入れた台木に形成層と呼ばれる部分がくっつき合

うように差してテープで固定した。

熟練の手際を見た後は生徒らで実践。穂木を切りすぎたり、カんでテープが伸びて固定が甘くなったりと苦戦し、講師たちにごつを聞きながら成功まで何度も挑戦していた。

同校2年のさん(16)は「穂木を切るのに指にナイフの跡が付くくらい力を要した。接合がうまくいくには運もあると聞き、農家の皆さんが大変な苦労で丹波栗を支えてくれているんだと実感した」と話していた。